



2/3 2年いじめ防止教室

2年生は各教室で茨城県スクールロイヤーである阿久津正晴先生の講話を聴きました。テーマは「いじめを人権から考える」です。子供たちは先生のお話に耳を傾けながら、自分が感じたことや思ったことを素直に表現していました。考えに考えを巡らし、考え抜こうとする姿が印象的でした。



1組富岡さん:お話を聞いて、相手の気持ちを考えてから行動しようと思いました。少し面白がって言った言葉が相手を傷つけたり、気を使ってあげたつもりが相手は嫌がったりすることがあるということを学びました。自分の見たものがすべてと考えずに、視点を変えて、物事を観ようと思いました。思いやりを心掛けて知らない他人でも優しく、丁寧に接して過ごしたいと思いました。

2組國安さん:いじめられた人も悪いのかという質問で、僕はいじめられる人も少しは悪いと思っていたけど、今日のいじめ防止教室で考え直すことができました。いじめることは絶対にしてはいけないので、見かけた時は声をかけるようにしたいです。話を聞いて弁護士に興味をもちました。

3組園部(はな)さん:社会人にもたくさんのおいじめがあり、いじめにはたくさん種類がある。人が命を落とす恐ろしいもの。人が幸せで平等であるための人権を傷つけるもの。相手が嫌がっていたら、それはいじめになる。自分自身の心の中のコップや友達などの見えないコップの水があふれないようにいじめ防止につなげていきたい。見て見ぬふりはしない。いじめをされても、見ても素直に相手に伝える。



4組四ツ谷さん:「人にはコップがあり、悪いことがあると水が溜まっていくこと」について話を聞いて、その水があふれないよう溜まっていかなないようにしていきたいです。また、いじめが良くない理由をしっかりと理解できました。水があふれないように嫌なことははっきり言ったり、相談できる人を大切にしていきたいです。

2/4 英語研究授業

文部科学省教科調査官の山田誠志先生、茨城県英語教育研究部長の森久美子先生、同じく事務局の蓮見宏明先生が来校され、2年1組の英語の授業を参観しました。

茨城県のよさを、大型ディスプレイを活用して英語でプレゼンテーションするという授業でした。4人でチームをつくり、様々な視点から茨城県の魅力を発信していました。また、発表したチームに対して、タブレットを使って互いに感想を伝えたり、相互に評価したりしていました。参観された3人の先生方からも「情報や自分の考えを整理して相手に分かりやすく伝えようとする姿が素晴らしい」と褒めていただきました。



佐藤(みき)さん:私はプレゼンテーションで、ジェスチャーをしながら聞き取りやすく大きな声で発表しました。どうしたらみんなに分かりやすく話せるか考えることは難しかったけど、とても楽しかったです。

高橋さん:僕はプレゼンテーションを通して成長したと思うことは、英語の発音です。僕は英語が苦手でした。その中でも、発音することが最も苦手でした。けれど、プレゼンテーションで発音できるようになってうれしかったです。

